

19 : 草地更新後の牧草収量の経年変化

畜産科学科 食料生産科学講座 花田正明

メールアドレス hanada@obihiro.ac.jp

研究の概要

【目的】草地更新時における有機質資材の投入量および投入位置が、投入した有機質材の動態ならびに土壌の物理性、さらに植生および牧草生産量に及ぼす影響を長期間に渡って調査し、草地更新時における適切な有機質材の投入方法を検討する。2004年度は造成後4年目における牧草生産量について調査を行った。

【方法】

- 1) 試験草地: 帯広畜産大学畜産フィールド科学センター採草地
- 2) 草地施肥・播種: 2001年7月25日  
播種量: チモン(ホケイ)13kg/ha + オークチャートグラス(ハイキング II)9.0kg/ha + シロクロハバ(ソニーヤ)1.0kg/ha
- 3) 試験処理
 

①有材心破・有機質「堆肥」投入(200t/ha)・グラスシーダ播種	②有機質投入なし・グラスシーダ播種
③有機質「堆肥」投入(200t/ha)・グラスシーダ播種	④有機質「堆肥」投入(100t/ha)・グラスシーダ播種
⑤ブロードキャスト播種	⑥心土犁・グラスシーダ播種
⑦ブラソイラ・グラスシーダ播種	⑧グラスシーダ播種

【結果】

本年度の年間牧草生産量は、①区で最も多かったが、他の処理区の間には差は認められなかった。また、各処理区とも更新5年目の本年度は過去5年間で最も多い年間牧草生産量であった。

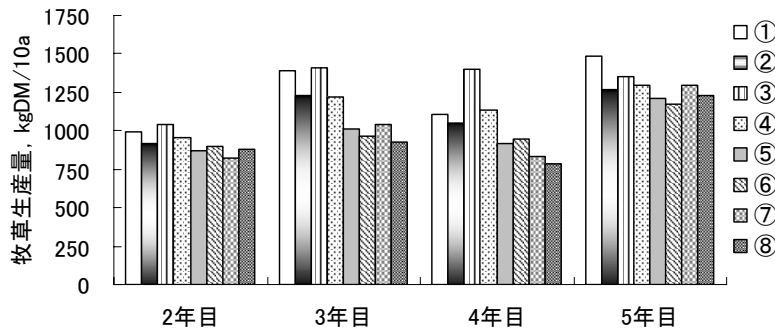


図 各処理区の間年牧草生産量の推移